

シ ラ バ ス

(6年次用)

平成24年度 6年次授業日程表

週	日程	月	火	水	木	金	
	3月26日～3月30日	春休					
1	4月2日～4月6日	個別計画実習 第Ⅰ期：平成24年4月2日(月)～5月18日(金)					1-1
2	4月9日～4月13日						1-2
3	4月16日～4月20日						1-3
4	4月23日～4月27日						1-4
5	4月30日～5月4日	振替休日(昭和の日)	実習報告週(チューターへの実習状況報告等)	憲法記念日	みどりの日	1-5	
6	5月7日～5月11日	全人医学/ユニオンレクチャー ※期間中に健康診断を予定					1-6
7	5月14日～5月18日						1-7
8	5月21日～5月25日						
9	5月28日～6月1日						
10	6月4日～6月8日	個別計画実習 第Ⅱ期：平成24年6月4日(月)～7月20日(金)					2-1
11	6月11日～6月15日						2-2
12	6月18日～6月22日						2-3
13	6月25日～6月29日						2-4
14	7月2日～7月6日	実習報告週(チューターへの実習状況報告等)					2-5
15	7月9日～7月13日						2-6
16	7月16日～7月20日						海の日
17	7月23日～7月27日	夏休					
18	7月30日～8月3日	夏休					
19	8月6日～8月10日	夏休					
20	8月13日～8月17日	夏休					
21	8月20日～8月24日	夏休					
22	8月27日～8月31日	個別計画実習 第Ⅲ期：平成24年8月27日(月)～10月12日(金)					3-1
23	9月3日～9月7日						3-2
24	9月10日～9月14日						3-3
25	9月17日～9月21日						敬老の日
26	9月24日～9月28日	発表準備期間/実習報告週					3-5
27	10月1日～10月5日						3-6
28	10月8日～10月12日						体育の日
29	10月15日～10月19日	卒試(国試形式) ※期間中2日間					
30	10月22日～10月26日						
31	10月29日～11月2日	卒試(再試) ※期間中1日間					
32	11月5日～11月9日						
33	11月12日～11月16日	勤労感謝の日					
34	11月19日～11月23日						
35	11月26日～11月30日	振替休日(天皇誕生日)					
36	12月3日～12月7日						
37	12月10日～12月14日						
38	12月17日～12月21日	成人の日					
39	12月24日～12月28日						
40	12月31日～1月4日	建国記念の日					
41	1月7日～1月11日						
42	1月14日～1月18日						
43	1月21日～1月25日	春分の日					
44	1月28日～2月1日						
45	2月4日～2月8日						
46	2月11日～2月15日						
47	2月18日～2月22日						
48	2月25日～3月1日						
49	3月4日～3月8日						
50	3月11日～3月15日						
51	3月18日～3月22日						
52	3月25日～3月29日						

科目名： 全人医学

場所： 大講義室・A講義室・B講義室

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（疫学分野） 教授 西尾 久英
	連絡方法	TEL: 078-382-5540 E-mail: nishio@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	看護部 部長 松浦 正子
	役 職 氏 名	外科系講座（麻酔科学分野） 講師 高雄 由美子
	役 職 氏 名	内科系講座（医療情報学分野）／附属病院医療情報部 准教授 高岡 裕
	役 職 氏 名	内科学講座（消化器内科学分野）／地域社会医学・ 健康科学講座（地域医療ネットワーク学分野） 特命教授 藤田 剛
担当教員 (学部外)	役 職 氏 名	神戸大学大学院法学研究科 教授 丸山 英二
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア科 部長 安保 博文
	役 職 氏 名	兵庫県スモンの会 会長 春本 幸子
	役 職 氏 名	兵庫県 理事 細川 裕平
	役 職 氏 名	西本クリニック 院長 西本 隆
	役 職 氏 名	環境省 水・大気環境局大気環境課 課長 山本 光昭
学習到達目標	医療の今日的問題とそのアプローチ法を理解する。	
講義の概要・形式	チーム医療，薬害被害者の悲嘆，法律家の立場からみた医師活動，行政の立場からみた医療・保健，漢方医学，緩和医療といった医療の今日的問題について講義します。	
講義内容	<p>(1) チーム医療（担当教員：松浦）</p> <p>現在、医療の現場ではチーム医療を推進するためのさまざまな努力がなされています。しかし、ひとくちにチーム医療といっても、その捉え方は多様で、医療従事者間でもその認識にはずれがあり、そのことが、チーム医療を困難にしている要因のひとつになっている場合があります。「チーム医療ということばは、立場や役割の異なる職員が勝手に言っているだけでみんなが同じように捉えていないのではないだろうか。そもそもチーム医療の定義ってというのはきちんとあるのだろうか？」と思われたことはありませんか。</p> <p>そこで、今回、「チーム医療」について改めて整理し、考察してみたいと思います。</p>	

講義内容

(2) 終末期医療と緩和ケア (担当教員: 安保)

進行癌を患った人は、身体・心理・家族・社会・環境・宗教・生と死への考え方など、各方面でそれ以前にはなかった問題を生じ、生活が損なわれていく。緩和ケア病棟では、患者と家族の生活状況を全体的にとらえたうえで、実現可能な患者・家族の希望を引き出し、その希望の実現のために障害となっている問題を一つ一つ解決していくか希望や問題を別の形に置き換えるとともに、患者や家族の人間関係を再構築することによって、癌によって損なわれた生活全体を改善することを目指している。今回の講義では、緩和ケアを行う上で必要な考え方を概説した上で、症状緩和の方法・難しい場面でのコミュニケーションのとり方など緩和医療の具体的な技術についてお話ししたい。

(3) 薬害 (担当教員: 春本)

医薬品には効果と同時に、必ず副作用があります。副作用がそれだけに止まらず、看過できない被害を人体にもたらした場合が薬害です。日本の代表的な薬害であるスモン(キノホルム薬害)を例に、日本の薬害の歴史、被害実態、日本で多発した原因などについて概説し、日常の診療の中での薬害防止について考えたいと思います。

(4) 地域医療 (担当教員: 細川)

地域とは何か、医療とは何かを考えた上で、現在、兵庫県で対応している医療関連施策や考え方の基本(SEE, ASSESSMENT, PLAN, DO)、施策の具体的実施手法など基本的な考え方を事例を使い講義します。具体例としては(1)医療確保施策(2)感染症施策等を例示として考えています。講義を通じて、臨床にかかわる医師として社会との関連を理解し、医学と医療の相違点等を考えたうえで「これからの医療のあり方」、「どんな医師をイメージして自己研修を計画するか」などの考え方の基本を講義します。

(5) 東洋医学総論 (担当教員: 西本)

漢方医学は、紀元前4世紀頃に中国において編纂された「黄帝内経」という書物にその原型をみるが、その後、中国国内においては中国伝統医学として発展し、それを輸入した日本においては、15世紀頃から「漢方医学」として独自の体系化がなされてきた。その特色は生薬による治療と針灸治療であるが、昨今、西洋医学の発達の一方便、西洋医学では十分な対応ができない症状や疾患に対して、漢方治療が大きな効果を挙げることが認知されてきている。講義では、漢方医学の歴史・基礎を解説するとともに、臨床医学としての漢方が、西洋医学に対してどの分野でアドバンテージを持ちえるか、あるいは西洋医学をどのように補完しうるか、について紹介していきたい。

(6) ペインクリニック領域の漢方治療 (担当教員: 高雄)

麻酔科の業務には周術期の麻酔管理、術後の全身管理とペインクリニックがある。この内ペインクリニックでは様々な痛みの治療を経験するが、痛みのメカニズムはまだまだ解明されていない点が多い。特に難治性慢性疼痛では「これをすれば治る!」といった治療法が確立されておらず、神経ブロック、薬物、理学療法を組み合わせた挑戦の日々である。最近われわれはこの難治性疼痛の治療に漢方薬を取り入れてきた。近年、東西医学の融合の重要性が認識されているが、日本の漢方医学は6世紀前半に中国からもたらされ日本の国情に合わせて工夫改良され日本独自の発展を遂げ今日に至る。今回の講義では痛みの治療における漢方薬の役割や効果についてのわれわれの取り組みを自験例を中心に紹介する。

(7) 鍼灸 (担当教員: 高岡)

鍼灸治療とは、我が国の伝統医学である東洋医学の治療法であり、生薬を用いた漢方治療と一対をなしている。ヒトゲノム解析の完了後、ゲノムに記録されている個人の体質情報を利用したテーラーメイド医療(ゲノム医療)実現に向けて研究が進められている。以前は「画一的な治療行為をおこなう西洋医学の欠点」に対して「東洋医学のアドバンテージは、個人個人の体質に合わせた治療」にあると謳われ、最近「未病を治する」とも言われる。これらは、「テーラーメイド医療」や「予防医学」と同義といえる。本講義では、(1)ゲノム医療の現状、(2)ゲノム情報の再構成や医療応用等を解説し、引き続きゲノム科学の切り口で鍼灸を解析した意義と結果、すなわち(3)骨格筋に及ぼす鍼通電治療の効果、特にミオスタチン遺伝子とユビキチンリガーゼ遺伝子の発現抑制効果、(4)鍼通電治療効果の分子メカニズムを紹介し、今後の可能性について考察したい。

<p>講義内容</p>	<p>(8) 医療・医学における倫理と法 (担当教員：丸山) 生命倫理の基本原則について触れたあと、外科手術、臓器移植、安楽死・尊厳死・終末期医療を例として取り上げ、刑法の基本原則について説明し、あわせて、臓器移植と終末期医療に関する最近の動きを紹介したい。医療事故による法的責任の主要なものとして、①民事責任(損害賠償責任など)、②刑事責任、③行政上の制裁、について、成立の要件と効果および最近の傾向を解説する。その中で、インフォームド・コンセントの要件や個人情報保護法制の概要も取り上げたい。</p> <p>(9) 消化器内科領域の漢方治療 (担当教員：藤田) 機能性ディスペプシア、胃食道逆流症、過敏性腸症候群、便秘症といった機能性疾患や、ゲップ・腹部膨満感といった腹部症状は、それらを抱える患者は多く、QOLを損なうものであるにもかかわらず、それらの病態に関する研究はまだ十分でなくその診断法や治療薬は西洋医学の範囲では限られている。漢方治療はそれらの疾患や症状に対して一定の有効性を示しており、QOLを重視する全人的医療において漢方治療を学ぶことは重要である。 本講義においては、消化器内科領域の漢方治療に関するEBMを解説するとともに、漢方治療が有効であった症例の提示や、現在取り組んでいる漢方問診票を用いた臨床研究を取り上げる予定である。</p> <p>(10) わが国の保健医療政策と医師の役割 (担当教員：山本) わが国の保健医療を取りまく環境の変化として、①疾病構造の変化、②少子高齢社会、③価値観の多様化、④経済の進展・低成長、⑤国際化の進展、⑥情報化の進展、⑦科学技術の進歩、⑧健康危機管理事例の多発について解説したうえで、医師と法律・行政との関わり、最近の保健医療政策の動向について解説する。また、厚生労働省医系技官の役割とその仕事の魅力について紹介したい。</p>
<p>今年度の工夫</p>	<p>系統講義では取り上げられなかったテーマから、今日の日本の臨床医活動にとって特に重要なものを取り上げた。</p>
<p>教科書・参考書等</p>	
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>出欠を重視する。</p>

大講義室・A講義室・B講義室 授業科目名 (全人医学)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	5月21日 (月)	10:10~11:10	チーム医療 (1)	松浦 松浦 安保 安保
		11:20~12:20	チーム医療 (2)	
		13:20~14:20	終末期医療と緩和ケア (1)	
		14:30~15:30	終末期医療と緩和ケア (2)	
1	5月22日 (火)	13:20~14:20	薬害	春本 細川
		14:30~15:30	地域医療	
1	5月23日 (水)	10:10~11:10	東洋医学総論 (1)	西本 西本 高雄
		11:20~12:20	東洋医学総論 (2)	
		13:20~14:20	ペインクリニック領域の漢方治療	
1	5月24日 (木)	11:20~12:20	鍼灸	高岡 丸山 丸山
		13:20~14:20	医療・医学研究における倫理と法(1)	
		14:30~15:30	医療・医学研究における倫理と法(2)	
1	5月25日 (金)	11:20~12:20	消化器内科領域の漢方治療	藤田 山本 山本
		13:20~14:20	わが国の保健医療政策と医師の役割 (1)	
		14:30~15:30	わが国の保健医療政策と医師の役割 (2)	

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	内科学講座（総合診療内科学分野） 教授 秋田 穂東
	連絡方法	TEL：078-382-6596 E-mail：ahozu@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
学習到達目標	疾病構造の変化から、多くの診療科が関わるケースが医療現場では増えてきている。複数の診療科が関わる症例を選択し、各々の診療科の専門医が病態の診断ならびに治療法に関して活発に討論し、最善の方法を選択していくまでの過程を学生も参加して学ぶことを目標とする。ぜひ、チーム医療と全人的医療の大切さを学んでいただきたい。	
講義の概要・形式	横断的な症例が選択されており、幅広くさらに高度な知識が要求される。学生にも討論に参加してもらうので、テーマに対して積極的に予習をお願いする	
講義内容/ 学生へのメッセージ	<p>【腎臓内科学】 慢性腎臓病は腎機能が低下する疾患ですが、腎疾患だけが問題となるのではなく、脳、眼底、心臓、大血管などの臓器に心血管病を多く発症させてしまう疾患です。そのメカニズムも徐々に解明されてきています。特に糖尿病があると、脳、眼底、心臓に合併症が増加します。 ～メッセージ～ 腎臓病学・糖尿病学は、患者さんのトータルケアと内科学全体の学習に繋がります。</p> <p>【総合内科学】 慢性疾患（うっ血性心不全、糖尿病、人工透析など）の末期の治療やケアは重要な問題であり、その中でも終末期の肺気腫患者に対して、治療や緩和ケアなど、何をすべきか、皆で考えてみたいと思います。 ～メッセージ～ 慢性疾患に限らず、どのような最期を迎えるかは重要な問題です。患者にとって何が大事かを考えましょう。</p> <p>【腫瘍・血液内科学】 頭頸部がんの中でも、中咽頭癌を取り上げて、最近の話題や治療法について講義します。頭頸部癌の治療は多職種の間が非常に重要であり、腫瘍・血液内科、耳鼻咽喉頭頸部外科、放射線腫瘍科のそれぞれの視点からのアプローチを講義します。 ～メッセージ～ この講義を通じて頭頸部癌診療における多職種医療の重要性を理解して下さい。</p>	

<p>講義内容/ 学生へのメッセージ</p>	<p>【呼吸器内科学】 強皮症に伴う間質性肺炎及び肺高血圧症に対して複数科で治療を行なっている症例を提示します。リウマチ科より強皮症について、循環器内科より肺高血圧症の治療についてのレクチャーを予定しています。 ～メッセージ～ 膠原病に伴う肺病変の治療について事例を通じて理解を深めて下さい。</p> <p>【産科婦人科学】 産科出血は妊産婦死亡の主たる原因となりこの対策は非常に重要である。今回我々は癒着胎盤を術前に予見し、放射線科、泌尿器科の協力を仰いで無事に母児救命することができた症例を提示する。 ～メッセージ～ 各科の連携を学び、産科婦人科のダイナミズムを感じ取ってください。</p> <p>【糖尿病・内分泌内科学】 人間ドックの普及により副腎偶発腫瘍（偶然に副腎腫瘍が発見される例）が増えており、過剰にホルモンを分泌しない非機能性腫瘍とホルモンを過剰分泌する機能性腫瘍およびその他の腫瘍が含まれます。副腎偶発腫の診断、治療について総合的に解説します。 ～メッセージ～ 実際の症例をもとに、内分泌学的診断・画像診断と治療について解説します。</p> <p>【腎泌尿器科学】 前立腺腫瘍から敗血症に至り感染性心内膜炎を併発した1例を提示する。それぞれの疾患と集学的治療を行った本症例における各診療科の連携、その過程について概説する。 ～メッセージ～ 集学的治療を行うことで治療しえた本ケースを通してチーム医療の重要性を学んでいただきたい。</p> <p>【感染症内科】 感染症診療とも考えられている“発熱疾患”。その外来診療について感染症内科と漢方内科双方の側面から考えます。 ～メッセージ～ 外来での感染症内科と漢方内科でクロストークを行います。</p> <p>【消化器内科学】 消化管腫瘍の集学的治療の方針決定を実際の症例を題材に検討したい。 ～メッセージ～ 未定。</p> <p>【形成外科学】 糖尿病性足潰瘍の原因は、1. 末梢神経障害、2. 末梢血管障害（末梢動脈性疾患）、3. 感染症であり、これらの病因が複雑に混在した病態である。病態を把握して治療に臨み救肢を図る集学的治療を紹介する。 ～メッセージ～ 糖尿病性足潰瘍は一般には知られているが、その病態や治療は本邦の医学教育にはない。飛躍的に増加している糖尿病性足潰瘍を紹介する。</p>
<p>教科書・参考書等</p>	<p>各科のプリント</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>出席点</p>

平成24年度6年次ユニオンレクチャー講義予定表
講義室:大講義室(金曜のみA講義室)

回	月日(曜)/時間/担当	講義項目	関連講座
1	5月 21日(月)	慢性腎臓病と心血管病	糖尿病・内分泌内科学
	15:40~17:10		
	腎臓内科学 西 慎一		
2	5月 22日(火)	終末期呼吸不全の治療	呼吸器内科学 緩和ケアチーム
	15:40~17:10		
	総合内科学 明寄 太一		
3	5月 23日(水)	頭頸部がんにおける多職種医療	耳鼻咽喉・頭頸部 外科学・放射線腫瘍学
	15:40~17:10		
	腫瘍・血液内科学 清田 尚臣		
3	5月 24日(木)	強皮症関連肺病変の治療	リウマチ学・循環器内科学
	15:40~17:10		
	呼吸器内科学 船田 泰弘		
4	5月 25日(金)	癒着胎盤 ～症例から学ぶ～	放射線医学・泌尿器科学
	15:40~17:10		
	産科婦人科学 山田 秀人		
6	5月 28日(月)	副腎偶発腫の診断と治療	泌尿器科学
	15:40~17:10		
	糖尿病・内分泌内科学 井口 元三		
7	5月 29日(火)	集学的治療を要した前立腺膿瘍の1例	総合内科・心臓血管外科学
	15:40~17:10		
	腎泌尿器科学 三宅 秀明		
8	5月 30日(水)	外来での発熱の見方～漢方と感染症のクロストーク～	漢方内科
	15:40~17:10		
	感染症内科 大路 剛		
9	5月 31日(木)	未定	食堂胃腸外科学・病理学
	15:40~17:10		
	消化器内科学 奥野 達哉		
10	6月 1日(金)	糖尿病性足潰瘍	循環器内科学・糖尿病・内分泌内科学
	15:40~17:10		
	形成外科学 寺師 浩人		

科目名：個別計画実習

区 分	内 容	
学習指導教員 (チューター)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野教授・准教授(別表のとおり)
	備 考	※学生個々のチューターは5年次に決定する。 ※チューターは、個々の学生が計画する実習内容を、大局的な観点から個別に相談・承認・確認し、その実習計画に関して責任を有する。
学習指導教員 (個別計画実習担当 教員)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野実習担当教員
	備 考	※各分野の実習担当教員は、学生が実習計画を策定するにあたり、各実習期において自科(分野)の実習を希望する学生に対して、その具体的な実習内容・実習先に関する情報提供や相談を行う。また実習協力病院に対して実習受入依頼を行い、時期毎の実習受入可能人数等を調整する。神大病院における実習時は、実習を担当する教員の代表として学生に対応する。
学 習 目 標	<p>本実習は、学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施するものである。臨床実習のみならず研究室や海外での実習も対象とし、個々の学生に対して臨床関係の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容を吟味し指導を行う。</p> <p>臨床実習では、5年次に行ったBSL(Bed Side Learning: 大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習)とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。</p> <p>海外の実習では、外国での臨床実習または研究を通じて、異文化交流を深め、国際的な視野の獲得に勤めることを目標とする。</p> <p>研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。</p>	
実 習 の 形 式	<p>実習期間を大きく次の3つの期間(実習期)に分ける。</p> <p>第Ⅰ期：平成24年4月 2日(月)～ 5月18日(金)</p> <p>第Ⅱ期：平成24年6月 4日(月)～ 7月20日(金)</p> <p>第Ⅲ期：平成24年8月27日(月)～10月12日(金)</p> <p>原則として実習期ごとに異なる実習目的(実習分野)を掲げることとし、各期において設定した実習目的に基づき、個々のチューターと相談しながら実習計画を策定・実施する。各期において実習報告日を設け、実習状況を報告・確認するとともに、全実習終了時には実習内容に関する発表会を行う。</p>	
臨床実習について	<p>実習協力病院に対して実習を依頼し、実習協定書を取り交わす。 あわせて「臨床実習の手引き」を作成・送付する。</p>	
成績評価方法	<p>各チューターが、担当する学生の全期を通じた評価を行う。 チューターは、各実習先における指導責任者の評価や、各期実習報告時の面談等における評価、自己評価及び発表会における評価等に基づき可否を判定する。 発表会における優秀者は、卒業証書授与時に表彰する。</p>	

区 分	内 容
(別表) チューター一覧(H24)	平田 健一 循環器内科学 教授
	吉田 明弘 循環器内科学 特命准教授
	西村 善博 呼吸器内科学 准教授
	西尾 涉 呼吸器外科学 准教授
	森信 暁雄 病態検査医学 准教授
	吉田 優 病因病態解析学 准教授
	東 健 消化器内科学 教授
	豊永 高史 消化器内科学／光学医療診療部 准教授
	清野 進 糖尿病・内分泌内科学 教授
	小川 涉 糖尿病・内分泌内科学 准教授
	西 慎一 腎臓内科学 特命教授
	荻田 典生 神経内科学 特命教授
	南 博信 腫瘍・血液内科学 教授
	松岡 広 腫瘍・血液内科学 准教授
	岩田健太郎 感染治療学（感染症内科） 教授
	秋田 穂東 総合内科学 教授
	橋本 正良 プライマリ・ケア医学 特命教授
	杉村 和朗 放射線医学 教授
	藤井 正彦 放射線医学 准教授
	佐々木良平 放射線医学 特命准教授
	飯島 一誠 小児科学／こども発育学 教授
	錦織千佳子 皮膚科学／免疫・感染内科学／臨床検査・免疫学 教授
	田中 究 精神医学 准教授
	柱本 照 リウマチ学 特命准教授
	黒田 大介 食道胃腸外科学 准教授
	具 英成 肝胆膵外科学 教授
	黒坂 昌弘 整形外科 教授
	黒田 良祐 整形外科 准教授
	西山 隆之 整形外科 特命准教授
	甲村 英二 脳神経外科学 教授
	根木 昭 眼科学 教授
	塚原 康友 眼科学 准教授
	丹生 健一 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授
	大月 直樹 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 准教授
	田中 一志 腎泌尿器科学 特命准教授
	寺師 浩人 形成外科学 准教授
	一瀬 晃洋 形成外科学 特命准教授
	前川 信博 麻酔科学 教授
	仁科かほる 麻酔科学 准教授
	伊藤 智雄 病理診断学／病理部・病理診断科 特命教授
	川合 宏哉 総合臨床教育・育成学 特命教授
	楠 信也 医療の質・安全管理部 准教授